

2012

Eenen

延年

vol. 6

KYOGGEN x COMMEDIA

狂言×イタリア仮面喜劇ー狂言の起源を探って

ワークショップ・公演・シンポジウム

8月25日、26日  
ワークショップ  
会場 アトリエ オガ

9月1日  
Eenen 延年公演  
会場 堺能楽会館

9月2日  
シンポジウム+ワークショップ  
会場 ドーンセンター

お問い合わせ：アトリエ オガ 大阪市中央区糸屋町 1-4-12-202

www.atelier-oga.com e-mail: atelieroga@gmail.com

tel/fax 06 - 6942 - 1577

片山千歳古典芸能振興基金 / (財) 大阪コミュニティ財団助成事業

協力：イタリア文化会館ー大阪

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会  
関西文化力



# 狂言×イタリア仮面喜劇

- 狂言の起源を探って -

狂言の源流を探って、イタリアの仮面即興劇コンメディア・デッラルテとの共同作業を始めて三回目になります。今回は、桃山学院大学の研究プロジェクトとも連動し、ワークショップやシンポジウムも絡めながら狂言の本来の意味を現代に蘇らせる試みとなりました。

狂言が生まれた中世は、人間の生命が疫病や戦乱に常に脅かされる不安な時代でしたが、現代の日本も3.11以降頻繁化を予想される地震に原釜にと、狂言が誕生した時代に似て、不安との共存を余儀なくされています。かつての狂言師にはそんな不安な時代を人間が生き抜くのを助ける二つの大事な役割がありました。一つは風刺によって社会の問題を浮き彫りにすること。もう一つは、地の神を舞によって鎮めながら自然との交信を担う役割でした。今回のEenen 延年では、狂言のこの二側面をともに掘り下げながら、現代という不安の社会にほんの一瞬でも治癒の時間をもたらせればと思っております。

## 公演

2012年9月1日(土) 昼の部 14:00 - 夜の部 18:00 -

### レクチャー & デモンストレーション

狂言とイタリア伝統仮面劇についての知識や演技方法、今回の実験の趣旨を実演を交え解り易く説明する。

出演 小笠原 匡 | 和泉流狂言師 |  
アンジェロ・クロッチェ | イタリア伝統仮面劇俳優 |  
アンドレア・プルニェーラ | イタリア伝統仮面劇俳優 |  
多木 陽介 | 演出家 |

### 鎮魂延年の舞 「黒い唄」舞

祝典曲「翁」(おきな)のなかで狂言方が担当する「三番叟」は、「父尉」「翁」「三番叟」の順序で始まった三番目の「黒い翁」の事だが、本来は苦々しい力を孕んだ「土地の精霊・荒神」であった。この「黒い唄」舞は、一昨年三月、島根県安来市の名利・清水寺で嘉暦四年の胎内銘を持つ摩多羅神像が発見され、去る四月二十九日清水寺の落慶法要にて民俗仮面研究家・乾武俊と小笠原匡が考証創作したものである。「摩多羅神」とは様々な力を持つ謎の異神だが、特に「芸能の神」としての性格をそなえている。今回は芸能の原点である荒神信仰に立ち戻り、「鎮魂延年の舞」として地鎮・鎮魂の心にて舞う。

作 乾武俊, 小笠原 匡 出演/舞 小笠原 匡

### イタリア伝統仮面劇デモンストレーション

十六世紀の劇作家ルザンテの作品『フィオーリーナ』からの名場面

出演 アンジェロ・クロッチェ, アンドレア・プルニェーラ

### 昼の部 新作『うもうて死ぬる』

翻案 多木 陽介, 小笠原 匡  
演出 アンジェロ・クロッチェ, 多木 陽介

昨年の福島原発事故以来、日本人と食物の関係は大きく変わり、一部には強迫観念的な行動も見られるし、実際安全な食べ物が保証されていないという事実もある。このような状況下では、美味しい砂糖菓子や猛毒だと嘘をつく主人と、そんな申し付けにも関わらずその菓子を食べってしまう二人の召使いを描く狂言『附子』は、また一味違う意味を持って見えてくる。

出演 小笠原 匡  
アンジェロ・クロッチェ  
アンドレア・プルニェーラ

### 夜の部 新作『健康元年』

翻案 多木 陽介, 小笠原 匡  
演出 アンジェロ・クロッチェ, 多木 陽介

かつて人間の管理を超えた恐ろしい災禍や病の蔓延を抑え込む力があるとされていた山伏があえなく失敗する姿を描く狂言の『くさびら』や『梟』の背後には、中世日本人の不安に満ちた生命観があったが、大型地震の予測と放射能の影響下、現代日本人は、それとある意味で近い状態を生きている。その健康を管理する現代医療機関の笑えるようでいて笑えない不条理な対応ぶりを『くさびら』や『梟』のシンプルな劇構造に沿って展開してみた。

出演 小笠原 匡  
アンジェロ・クロッチェ  
アンドレア・プルニェーラ  
青山郁彦  
松代尚子  
加藤充華  
コンメディア・デッラルテ研究会

8月25日(土), 26日(日) 13:00 - 17:00  
9月2日(日) 16:00 - 21:00

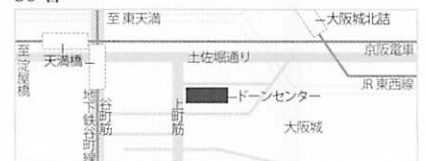
イタリアのルネサンス期に生まれ、その人気がやがて欧州中に広がった仮面喜劇のコンメディア・デッラルテは、十八世紀には一度絶えるが、二十世紀前半の演劇改革者たちによって、その身体性、即興などの価値を再発見された。ワークショップでは、世界的に活躍しているイタリア伝統仮面劇俳優 アンジェロ・クロッチェが代表的な仮面の演技の基本と、それを使ったシチュエーションにおける即興の練習を行う。

会場 アトリエオガ / 8月25, 26日  
定員 20名



会場 ドーンセンター / 9月2日 (17:00-18:00 休憩) (16:00-17:00 特別会議室) (18:00-21:00 多目的ルーム)

定員 30名



料金 1日参加 5,000円  
2日参加 9,000円  
3日参加 12,000円

9月2日(日) 13:00 - 15:30

### 現代社会と古典喜劇

狂言とコンメディア・デッラルテの出会い

桃山学院大学地域連携共同研究プロジェクト  
「中近世の日本とイタリアにおける  
仮面喜劇の生成発展と現代的実践について」  
のプログラムとして

公演ではイタリア仮面喜劇コンメディア・デッラルテとのコラボレーションを通して狂言の源流を探る作業を行なうが、シンポジウムではこれまでのEenen 延年の取り組みを振り返りながら、共同研究プロジェクトのテーマである仮面喜劇の生成発展と現代的実践についての考察を行なう。今回の公演ではとくに、社会に対して掲げる風刺の鏡としての喜劇と、自然との共振を再生するための舞という、狂言が本来持っていた大きな二つの機能をともに強調しながら、現代日本の観客と向き合うことを企図しており、シンポジウムにおいても、社会の中での演劇やダンスの本来の意義についても考察したい。

司会 和栗 珠里 (桃山学院大学准教授)  
パネリスト 小笠原 匡 (和泉流狂言師)  
多木 陽介 (演出家、批評家)  
アンジェロ・クロッチェ (俳優、演出家)  
アンドレア・プルニェーラ (俳優、演出家)  
ゲストパネリスト 高田 和文 (静岡文化芸術大学教授)  
会場 ドーンセンター 特別会議室  
大阪市中央区大手前 1-3-49  
TEL. 06-6910-8500  
定員 90名  
入場無料 全席自由

会場 堺能楽会館  
大阪府堺市堺区大浜北町 3-4-7-100  
TEL. 072-238-2000  
席数 250

料金 当日 4,000円  
前売り 3,500円  
昼夜通し 6,000円  
学生 2,500円  
学生通し 4,000円  
[全席自由]



主催・制作 アトリエオガ, お問い合わせ アトリエオガ, 大阪市中央区系屋町 1-4-12-202  
担当: 小笠原 尚子 TEL/FAX 06-6942-1577

ワークショップ

シンポジウム